

「喧喧諤諤」「和氣藹藹」

そして「一瀉千里」

会長 鈴木 龍成

平成廿二年のこの年も、既に年央を迎えようとしています。国の内外を、私達の生活周辺にも、波乱を予感させられるような多くの事象が起っています。その中であって、安寧を願う今日の頃です。

今年最大のイベントである「横山岳精先生吟道七十五周年・横山精真先生宗家就任五周年」の祝賀記念

岳精流日本吟院

ちよ多

第 3 7 号

平成 2 2 年 5 月

千代田岳精会弘報

吟縁に感謝

平成二十二年度岳精流指標

全国吟道大会が間近に迫っています。当会からも一六五名の吟友が参加し、一般合吟で高らかに吟声を轟かすことになつており、嬉しい限りです。この大切な大会での当会としての担当業務は、受付けであり、担当の皆様には、苦勞をおかけいたしますが、万全を期して業務の全うを、会を挙げてバックアップしようではありませんか。

年度前半の大きな行事である「廿二年度昇任審査」が去る四月廿五日無事終了いたしました。一三九名という多くの方々が平素の研修結果を披露され、お二人の審査員の先生から適切なアドバイスをいただき、誠に有意義な一日でした。これを機会に、また新しい向上へのステップを踏み出して頂くよう祈っています。

ところで、私も千代田岳精会は、幹事会を頂点として、各部門等、しっかりとした組織によって運営されてまいりますが、その中において、業務推進委員会」という組織は、会の運営諸事項につき企画したり検討したりして、その委員会が、このところ極めて活発な情報や意見交換の場となっており、時には「喧喧諤諤」ということもあり、また、そうした率直な意見、情報、やりとりの中から、お互いの考え方の理解が図られており、お互いの「和氣藹藹」のうちに次ぎなる前進につながっているように感じます。

この在りようは、一つひとつの活動の中にも大いにあってよい。はなから参加しようか。旺盛な意欲で、研修に積極的に励む中では、時には率直な意見交換もあり、そして「和氣藹藹」の雰囲気も醸し出されるのです。何と言つても、私達の活動の原点は「教場」にあり、真剣な教場研修を通じて、和やかな誰でも参加できる「場」づくりにかかっています。

「のびのび わくわく さわやか」のびのび、二五拠点「達成を年度目標に掲げて本年度取り組んでいることは、承知のとおりです。幸い、去る四月十日清水教場「中野分室」(分教場)が三名の新しい吟友を迎えてスタートいたしました。その他にも、次なる拠点の誕生も間もなくという明るい見通しもあります。まさに「二五〇名、二五拠点」へ向かって「一瀉千里」の時に、江青にして 鳥遼白く 花燃えんと欲す。山青うして

まさに一年中で最高の季節を迎えています。大いに吟の世界を満喫しましょう。



熊野古道の一方杉 星野久風 (清水)

平成22年度 千代田岳精会教場組織図

会 長
鈴木 龍成

総括副会長
耳塚 昇風

兼務副会長
菅原 龍琴
(兼女子部部長)

菅原 克風
(兼事業部リーダー)

菊地 駿山
(兼経理部リーダー)

山口 隆山
(兼業務推進委員長)

最高顧問 鷹 信慶
常任顧問 飯田 精龍
顧問 田崎 龍恒
顧問 磯石 吉村
顧問 上 恒

担当顧問 清 龍風
(会長増大担当)
(研修・吟力向上担当)

会 長
総括副会長
兼務副会長
幹事会

監 査 八尾 葉風

会 長 補 佐

(会長補佐主幹)
前田 帆風
酒井 順山
徳田 順山
八田 玉山

業務推進委員会
(構成委員：会長、副会長、部門リーダー)

委員長 山口 隆山 (丸二)
副委員長 八田 玉山 (丸二)
" 太田 翠風 (丸二)
" 花山 桜風 (丸二)

丸東	一陽	大菊	熊地	龍駿	清山	ハザマ	前二	田宮	達祥	山山
東陽	陽町	菊前	地田	駿道	山風	ザマ	二宮	宮原	祥克	山風
清	水	宮武	武本	道保	山山	水女	菅菅	原原	帆帆	山山
神	田	池田	本康	順孝	山泉	丸新	酒宿	井本	帆山	山山

教場長主幹 酒井 帆風

女子部部長 菅原 龍琴

丸の内第一教場

代々木分室

教場長 大熊 精治 (龍 清)
副場長 福田 玲子 (伶 風)
分室長 山口 富美子 (朱 風)

丸の内第二教場

草 加分室

日暮里分室

鎌 倉分室

教場長 山口 隆久 (隆 山)
副場長 八田 豊 (玉 山)
分室長 太田 君江 (翠 風)
分室長 本多 弘幸 (弘 風)
分室長 高橋 辰己 (辰 風)

東 陽 町教場

銀 座分室

神楽坂分室

調 布分室

教場長 菊地 利廣 (駿 山)
副場長 前田 道紀 (道 山)
分室長 本庄 由起 (麗 山)
分室長 本庄 三枝 (愛 山)
分室長 本庄 美枝 (駿 山)
分室長 本庄 隆子 (山 山)
分室長 本庄 隆子 (山 山)
分室長 本庄 隆子 (山 山)

清 水 教 場

中 野分室

教場長 宮武 保義 (保 山)
副場長 徳本 順孝 (順 山)
分室長 武藤 治道 (順 山)
分室長 村上 恒道 (順 山)

神 田 教 場

用 賀分室

志 茂分室

教場長 池井 康子 (康 風)
副場長 村川 武子 (康 風)
分室長 田中 公子 (公 泉)
分室長 小林 公子 (公 泉)

ハ ザ マ教場

松 戸分室

教場長 前田 達久 (達 山)
副場長 萩原 晴美 (晴 山)
分室長 石宮 祥修 (祥 山)

鍊 水 教 場

教場長 菅原 是克 (克 風)
副場長 菅原 博行 (行 山)

丸の内女子教場

教場長 菅原 純子 (龍 琴)
副場長 山手 詢子 (遙 山)

新 宿 教 場

教場長 酒井 繁行 (帆 風)
副場長 橋本 子子 (淳 山)
分室長 上村 芳子 (芳 泉)

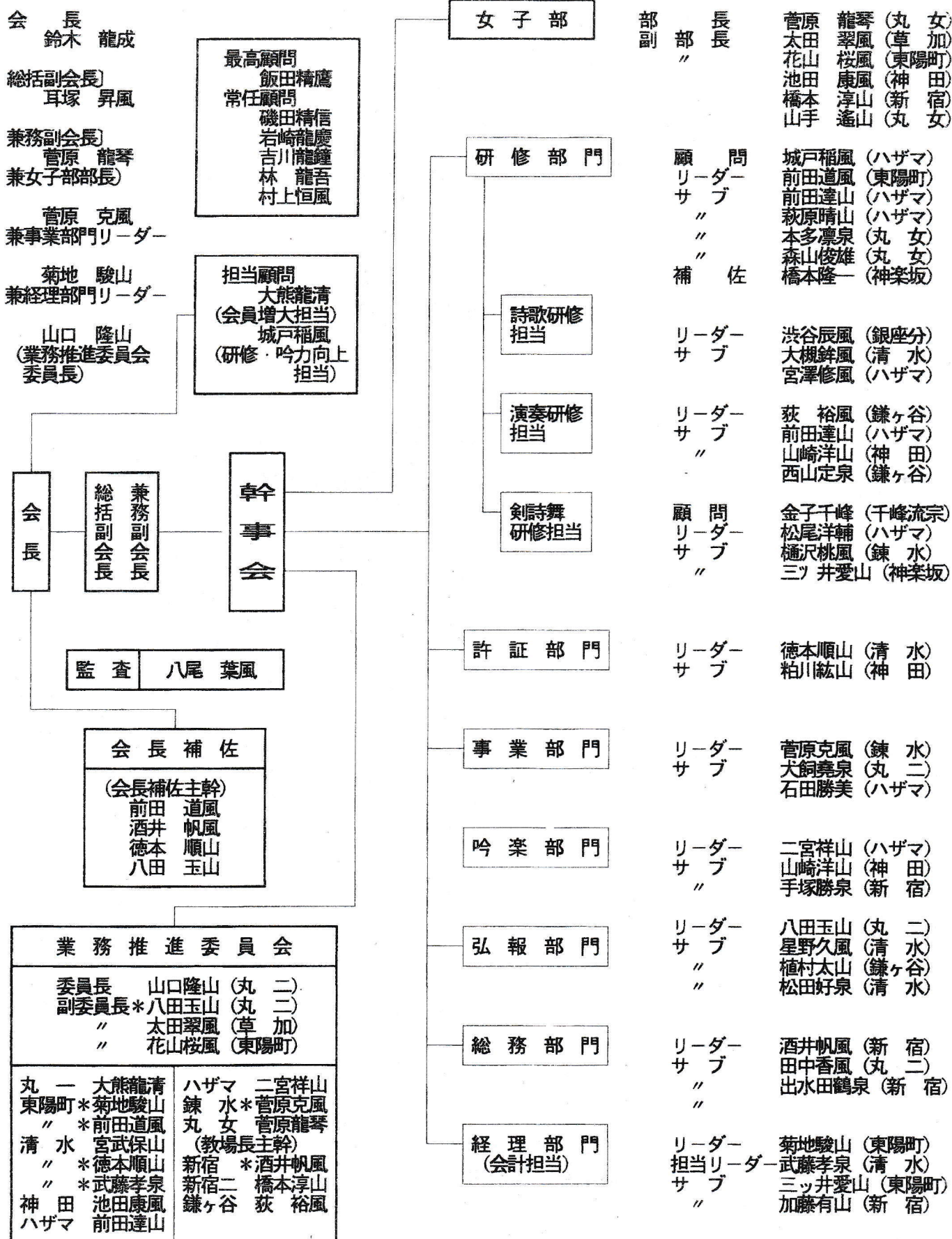
新 宿第二教場

教場長 酒井 繁行 (帆 風)
副場長 出水 好徳 (鶴 泉)

鎌ヶ谷 教 場

教場長 荻村 裕子 (裕 風)
副場長 植太 悦子 (太 山)

平成22年度 千代田岳精会 部門組織図



会長、副会長、教場長、部門リーダーにより構成

「二五周年を指し、二五〇名、二五 拠点」に向けて 体制の充実進む

来年度の創立廿五年を迎えるに当たり、会則が改定され、体制が前頁の組織図の通りとなります。改定の要点は
(1)専管部門担当副会長を兼務副会長と改称
(2)担当顧問を新設
(3)部を新設 婦人部門を女子部と改称
(4)経理部門に会計担当を明記 です。

菅原龍琴、菅原克風、菊地駿山、山口隆山各教場長が兼務副会長に就任され、五副会長体制となります。大熊副会長が新設の会員増大担当顧問に、城戸副会長が研修・吟力向上担当顧問に就任されました。女子部は菅原龍琴副会長が兼務されます。また、会則に明記された会計担当は会費の口座振替を主業務として武藤孝山リーダーが続けて担当します。

教場では、前田達山氏がハザマ教場長になりました。

副会長就任にあたり
丸の内第二教場長 山口 隆山
千代田岳精会、来年二五周年と言う時、副会長に就任する事になりました。日頃は、業務推進委員長として取組んでいますが、それは、課題解決、目標達成と言うことが職責だと考えています。

常に新会員のいる教場を目指すこと、その結果が、二五〇名に繋がることを確信し、業務推進していききたいと思っています。

副会長を拜命して
東陽町教場町 菊地 駿山

時恰も、慶祝家元吟道七十五周年宗家就任五周年のお目出たいこの年に副会長職を拜命し、少なからず緊張し、その職務の重大さを痛感しております。流統の一層の活性化を図るべく、全国で展開中の「組織の輪活き活き二ヶ年計画」は後半に入りました。受けて本年、千代田岳精会には「明るく、活気ある教場づくり」を主要テーマに、来年度の二五周年記念大会に「二五拠点、会員二五〇名体制の確立」を実現目標として取組んでおりますが、その実現如何は、各教場（分室）で「明るく、活気ある教場づくり」への理解と認識を深め、協力体制をどう造り上げていくかに、力がかかっております。流統の繁栄と、その一端を担う千代田の成長を願って、鈴木会長のもと、諸先輩のご指導とご鞭撻を仰ぎつつ、微力ながらお役に立てるよう努力してまいりたいと存じます、宜しくお願いいたします。

教場長を拜命して
ハザマ教場長 前田 達山

今年一月から城戸前教場長の後を受けてハザマ教場長を拝命いたしました。教場には他に吟歴、技量の優れた先輩の方々がおられる中で、特に指名されたわけでは、私も身を引き締めてこの責任を果たして参ります。

まだまだ未熟な私ですが、萩原、石田両副教場長の力も借り、ハザマ教場、千代田岳精会会員諸兄のご協力を得ながら、教場・千代田岳精会、更には流統の発展のために微力を尽くす所存です。何分よろしくお願いいたします。



清水教場で中野分室を開設

会場 中野区桃園地域センター
中野区中央四一五七一

J R 中野駅南口から徒歩5分

開設日 四月十四日

分室長 徳本順山副教場長

指導責任者 村上恒風常任顧問
毎月第二・第四水曜日
十三時〜、又は十六時〜

かねて構想中の清水教場第一号の拠
点として、中野分室の教場開きが去る
四月十四日、鈴木会長、耳塚副会長、

磯田・岩崎常任顧問、二宮松戸分室長
らの列席のもと清水教場サポーターを
含め廿余名で賑やかに開催されました。

当面は三名の新会員ですが「小さく産
んで大きく育てる」の譬えもあり、初

心者の目線で、吟の原点に返り学習で
きる教室に育てたいと思っております。

中央線沿線の初拠点です。今後を大
いに期待しましょう。

目標の二五拠点まであと三拠点です。
また、市川市に近々拠点発足という
明るいニュースがあります。

中央線沿線の初拠点です。今後を大
いに期待しましょう。

春の昇伝審査

鎌倉吟行会

清水 星野 久風

渡 精華指導本部長、伊藤精宗長野

渡 精華指導本部長、伊藤精宗長野
岳精會會長の両先生を審査員としてお
迎えし、会場原宿竹下通りに近い東
郷記念館「水交会」はこれまでの最多
数を大きく上回る一三九名の受審者で
溢れていました。

渡 先生には、午前中に島崎藤村の新
体詩「春」の特別研修会をお願いし、
女子部を中心に八九名が熱心にご指導
を受けました。

この日のため、各教場で研鑽を重ね
た普段の力が存分に表われ、渡先生
は「流統の基本を確りと吟じられた姿
勢が素晴らしい。指導者の取組みに感
動しました。審査は愛情を込めて叱咤
激励いたしました。伊藤先生は「初心
者の熱心さが特に伝わりました、素直
で私の好きな吟でした」との講評を頂
きました。また、渡先生から「常に前
進を続け『組織の輪拡大二ヶ年計画』
の実績を上げられている千代田に敬意
を表し、多くの会員が本部役員として
活動されていることに感謝します」と
の宗家よりのメッセージが披露されま
した。

丸の内第一

関

昌山

初佻昇格者

丸の内第二

田尻

映泉

銀座

本莊

香泉

自作自詠研修会が発足

鎌ヶ谷 全 全 全 全 新宿 丸の内女子 全 全 全 ハザマ 神田 清水 神楽坂 銀座

柳川 小柴 波治 真山 加納 小佐々 吉田 鈴木 石田 浦谷 丸山 河合 船津 勝村 増子

交泉 藤泉 舞泉 紫泉 隆泉 覚泉 聖泉 政泉 勝泉 江泉 育泉 香泉 英泉 忠泉 梨泉

自分で作った俳句や短歌を自分で吟じようと自作自詠研修会が研修部門のもとで橋本千秋氏（神楽坂分室）をリーダーに、四月十三日スタートしました。呼びかけに三〇名を超える方が手を上げられ、当日は廿名を超える参加で、まず俳句から始めました。

雅号をお持ちで、指導経験のある人から、全くの素人まで混在しており、経験者が担当する基礎シリーズからの勉強もあります。が、批評や添削はなしで吟じようと言う会です。毎月第二火曜日に、自作の一句と新聞俳壇から、気に入った一句の二題を持って参加することになっていきます。自作の句を吟じるのは気持ちのよいものです。とび入りの歓迎だそうです。



清水教場では三月廿九日（月）の練習日を特別吟行会として鎌倉で開催した。当日は晴天に恵まれ、午前十時藤沢駅集合。十四名が参加して江ノ電利用で長谷駅下車、長谷寺の観音堂・阿弥陀堂・大黒堂などを参拝後見晴台で眺望を楽しんだ。境内では紅白の枝垂桃や木瓜が見頃になっていた。

そのあと由比ヶ浜近くの「鎌倉わかみや玉藻」で一時間程、島崎藤村の新体詩「春」の吟詠練習をしてから会食鎌倉駅まで足を延ばし銀杏で有名になった鶴岡八幡宮を拝観して解散した。

吟詠コンクール

港区連（三月廿一日）

幼 年 の 部	優 勝 三 位	小 林 俊 晴 （東陽町）
一 般 二 部	小 谷 野 弘 子 （東陽町）	
一 般 一 部	中 内 博 泉 （ハザマ）	

一般三部

十一位 入賞 全全 二位

孝山 桜風 直一 裕子 横山 洪谷

清水 東陽町 丸二 八ザマ 銀座

入十七四
 賞位位位
 中城萩八
 川戸原田
 春稻晴玉
 風風山山
 (ハハハ丸
 ザザザ
 マママ二

全全全全全
永丸望遊青
長山月佐木
隆育輝竹隆
徳泉泉風風
丸ハ清ハ東
ザザマ陽
二マ水マ町

品川区連
一般一部
三位 中野ときえ
三月廿八日
(新宿)

一般二部
四位五位
加河
藤原
有山
（新）（新）
宿宿

一般三部
六位 粕川 絃山
七位 池田 康風
十一位 森山 俊雄
入賞 小林 公山
全位 小柴 藤山
二位 山手 遙山
丸新志丸神神
女宿茂女田田

一般三部 五位入賞 林宮川 龍吾 武郎 (神田) (神田)

独吟コンクールに入賞して
丸の内第二 永長 隆徳

この度、図らずも第三回港区吟詠コンクールに目出度く入賞することが出来ました。

ところで私は平成十九年八月、吉川岩崎両先輩に声をかけていた。いたのが縁で入会致しましたが、最初の頃は何かと忙しいこともあって、あまり真面目な会員ではありませんでした。しかし、高校時代の学友を誘ってからは毎回の出席が少しずつ楽しくなり、何となく責任も感じて序々に一緒に吟を樂しむようになりました。

今回は、入会した学友四人のうち二人が出席するとのこと、岩崎先生のお勧めもあり、あまり気の進まぬまゝに思い切って出場したことがこうゆう予期せぬ目出度い結果につながりました。

岩崎先生のご指導に心から感謝申し上げるとともに、これからこれを機会にしっかりと腰を据えて頑張りたいと思っております。

独吟コンクール初入賞

この度、品川区吟詠コンクール大会に出場し、優秀賞を頂きました。これ偏に林顧問、池田教場長そして諸先生方のご指導の賜物と心より感謝いたしております。

詩吟を始めて二年半になりますが、この頃ようやく吟の難しさが分かってきたような気がいたします。

「吟ずるは楽し」でありますが、「力
つけばより楽し」となるのでしょうか。
私が吟じても「ちつとも感動しない」
と酷評する家内を「感動」させる吟が
できるように頑張ろうと思っております。

第三二回港区吟詠コンクールに参加して

ハザマ 丸山 育泉

平成十八年五月に、千代田岳精会ハザマ教場に入会させて頂き、早や四年を過ぎました。

毎週の練習は一日として休むことなく諸先輩、又城戸教場長、鈴木会長様のご指導をいただき一生懸命頑張りましました。私も少しばかり詩吟の心をつかみ吟ずる事の難しさ日々感じて一時は色々悩みました。練習の時、先生方の吟詠をテープに録音して自宅で練習の際基本吟詠を正しく理解するために何回も繰り返し聞き、テープの音声がなくなるとなるほどでした。またあまりの練習と神経を使い過ぎたのか夢に出てくる事もありました。

いま考えて見ますと先生方の正しい吟詠を耳で何回も聞いて吟詠の方法と詩の意味を十分理解することが大切であることに気が付き、そして吟詠する時は自信を持って元気に吟じることだと考え、この度は初めて参加し、吟剣詩舞道総連盟の独吟コンクール区予選で初入賞を頂く事が出来ました事、お礼申し上げます。今後一層の努力と宗家信条「真善美」横山岳精先生の精神と基本理念を十分理解して頑張る覚悟でございします。今後とも宜しくご指導をお願ひ申し上げます。

コンクールの初入賞して
丸の内第二 蒐場 直一

この度、三月廿一日に行なわれた港区吟詠コンクールに出場し、初入賞の栄誉を頂き、身に余る光栄と思っております。これは偏に、岩崎先生、また山口教場長はじめ諸先輩方のご指導の賜物と感謝しております。

思えば、三年前の五月、高橋辰風先輩にお誘いを受け、初めて丸の内第二教場を訪ね、最初に、先生方や諸先輩の詩吟を耳にして、豊かな吟声、詩情溢れる詩吟に感動したものです。早いもので三年経ち、入会当時からの詩吟修得手帳を開いてみると、岩崎先生の指導の下に、まずは「声を大きく前に出して……」、「語句をはっきり流し……」、「大きな息の吸い方……」、「ア」の指摘が目につきました。これら、多くの指導を受けた項目をマスターしながら、素読百遍から吟入るよう、また、作者や詩の内容を理解し、詩情ある詩吟が吟じられるように努力したいと思ひます。

今後は、益々精進し、吟力向上に努め、吟が人生の友となるよう頑張りたいと思ひますので、ご指導のほど、宜しくお願い致します。

初めて吟詠コンクールに出場して
ハザマ 横山 裕子

詩吟を聴くことは大変好きですが、私の声は鶯か雀かと例えれば、後者の方でコンクールに出る事など夢のまた

夢、縁遠いことだと思っておりました。今回教場の皆様が出場すると言った「自分の殻」を打ち破る良い機会だと思ひ、出場を決めました。練習期間に十分あり、その間に先生方にご指導をいただいたまま、瞬間に拘らず練習をしいた。会場までの道中、小聲で口ずさむと、どうしても制限時間に納まらず、少々早めに出場すると早すぎると、不安な気持ちで会場へ着きました。出場者の方々の吟はゆったりと吟じられていたのみに何とか時間内に収まりますよう祈るのみでした。

吟じ終えブザーの鳴らなかつた事にホッとしました。平常心のつもりでしたが、頭から湯気が昇つていたようです。情感も何も出せない吟で恥ずかしい限りです。運が良かったのか入賞出来る機に前向きに勉強してゆきたく思います。

会長先生はじめ、早くからご指導くださいました先生方、そして応援いただきました会員の皆様、本当に有難うございました。今後とも宜しくご指導の程お願い申し上げます。

独吟コンクール初入賞
新宿 中野 よしえ

この度、吟剣詩舞吟詠コンクールにて、初入賞出来ましたこと、大変恐縮ながらうれしく思っております。教場で習い始めて二年二か月になりました。吟と言うものを全く知らずして入会をしました。先生方はもちろん先輩方々のご指導のお陰でこの入賞となりましたこと、感謝しております。まだまだ駆

出したばかりですが一吟一吟を覚えていく楽しさ嬉しさを感じています。発表の場を与えて頂きましたが、まだまだドキドキして思うようにはいきません。それでも緊張感の中、一杯の自分を見られることが幸です。今後更に努力をして練習に励んでいきたいと思っております。

創立二五周年記念大会

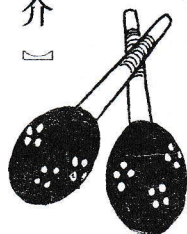
来年開催する二五周年記念大会の準備委員会が耳塚総括副会長を委員長として四月六日発足し、次の日時が決りました。

日程 平成廿三年十月十六日(日)
会場 全電通労働会館ホール
祝賀懇親会も同ホール。

総本部役員人事(一月一日付け)

研修学術部部員 犬飼 堯泉(丸二)
本部役員は一〇名となりました。

◇「新会員紹介」
丸の内第二教場
古屋リクコさん(二月入会)



新宿で家庭料理の店を長く続けられていた女将さん。馴染み客川口栄三氏の男の吟に魅せられ見学にみえました。初めて教場で習った吟をすぐ店でご披露されるほど熱心で、興味を持たれたお客様方にも勧められ、と吟友拡大共に楽しみます。

— 8 —